

科目名	法制史 Legal History						
科目担当者	柴田 博子 SHIBATA Hiroko						
単位数	2	配当年次	2年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科 [区分]	法学部・法律学科 [専門教育科目 専門科目]					ディプロマポリシーとの関連	(1)(4)
授業の概要	<p>法制史は、法律や制度の歴史を明らかにする学問である。現在の日本国の法体系は、明治時代に西洋の近代法を基礎として形づくられたものであるが、西洋法を受容する以前にも、日本には社会を規律していく上での様々な規範や制度が存在した。</p> <p>本講義では、おもに日本の前近代における国制や公法の領域を中心に扱い、国家と法の形成およびそれらの特質と展開過程を取りあげる。</p>						
授業の到達目標	<p>①法と歴史との結びつきについて理解できる。</p> <p>②前近代日本の国家と法に関し、それらの形成と展開について理解し、説明できる。</p>						
授業計画・内容	1	オリエンテーション					
	2	「日本」国号の成立					
	3	古代国家の形成					
	4	成文法の始まり					
	5	律令法の継受					
	6	国家の領域の変遷と法					
	7	古代国家の刑罰					
	8	公家法と武家法					
	9	戦国大名の分国法					
	10	近世幕藩体制と法					
	11	日本の周縁地域との関係と法					
	12	西洋近代法制定へのつながり					
	13	女帝と皇位継承					
	14	いわゆる皇室典範改正問題					
	15	まとめ					
授業外学修 (事前学修)	課題図書を読み、レポートを作成する (30 時間程度)						
授業外学修 (事後学修)	毎回、ノートとプリントから授業内容の要点を整理し、不明な箇所を調べておく (毎週 2 時間程度)						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	毎回のリアクションペーパーもしくは小テスト				60%	①、②	
	学期中レポート				20%	①	
定期試験				20%	②		
成績評価基準	<p>秀：(評点 90 点以上) 到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優：(評点 80 点～89 点) 到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良：(評点 70 点～79 点) 到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可：(評点 60 点～69 点) 到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可：(評点 60 点未満) 到達目標に達していない場合</p>						
教科書	毎時、プリントを配付する。						
参考文献	講義中に適宜指示する。						
その他							